

学習者の関心から広げる語彙・漢字教育 —「中級日本語学習者のための語彙・漢字1」の漢字教材作成活動から—

吉田 睦

1. はじめに

初級日本語を学習し、中級レベルに移行する段階の日本語学習者にとって、漢字学習への取り組み方には様々な選択がある。初級以降の漢字をどう学ぶか、どこまで学ぶかということは、大学における日本語教育プログラムの位置づけや、学習者個人の学習目標に深く関わる。中級段階へ向かう学習者の中には、漢字の基礎的な知識を習得した後で一度漢字学習を終える場合や、類義語や反対語、漢字が与える印象の違いなど、漢字や漢字語彙に関する学びを広げて漢字学習を継続していく場合などがある。小川ほか(2018)は、日本国内において、非漢字圏の学習者が留学生や就労者として増加していることを受け、漢字教育においても、自律的な学習に繋がるプログラムが必要であることを指摘している。大学機関で学ぶ日本語学習者も、社会における実践的な漢字使用を前に、学習者自身が漢字の学び方を再考し、漢字に対し意欲的に関心を持つことが期待される。

本稿は、国際基督教大学日本語教育プログラム(以下、JLP)において2020年春学期から新設された「中級日本語学習者のための語彙・漢字1」のプロジェクトである、学習者による漢字教材作成活動を報告するものである。本コースは、JLPにおける日本語を母語としない学生のための日本語授業(J1～J7コース、日本語演習コース)のうち、J4コース以上⁽¹⁾の学生を対象とした選択科目である。本稿では、2021年冬学期に開講したオンライン形式でのプロジェクトについて報告し、学習者自身が漢字教材を作成した実践を通し、漢字学習のストラテジーや自律的な漢字学習への手がかりを考察することを目的とする。

2. 研究の背景

2-1 漢字教材作成プロジェクトの背景

小川ほか(2018)は、グローバル人材のための文字教育の開発として、非漢字圏の海外日本語教育機関において漢字学習意欲に着目した調査を実施し、その結果をもとに学習者の視点に立ったリーフレット形式の漢字教材を作成した。本稿で扱う漢字教材は、小川ほかの研究を参考にしたものであり、本大学グローバル言語教育研究センター研究例会において小川ほかの研究分担者である尾崎(2018)が行った発表をもとに、中級学習者を対象とする漢字コースに準ずる形として検討し実施したものである。本プロジェクトでは、紙媒体の教材ではなく、学習者自身が自分の関心のあるテーマをもとに、Google Slidesを用いたデジタル教材として「語彙紹介」、「読み練習」、「書き練習」を作成した。またプロジェクトの最後には、発表や教材に関する相互コメントを行い、個人の活動をクラス内の相互的な活動へと広げる機会を設けた。

小川ほかの研究の一環として行われた栗原・関(2018)は、非漢字圏の日本語学習

機関において漢字学習に関するアンケートおよびインタビューを実施し、学習者にとっての「好きな漢字」「覚えやすい漢字」という観点から、習得漢字を分類した。栗原・関（2018）は、日本語学習者による「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を選択する理由は、大きく「意味」「形」「頻度」の三つであるとし、その選択には学習者自らの出身地域、母文化、学習目的が反映されるとした。本プロジェクトにおいても、学生が自分で教材のテーマを選定しており、学習者自身が関心のあるテーマに取り組むことは、学習者の漢字学習意欲の促進に繋がる可能性があると考えられた。

また加納（2017）は、日本語の漢字は字形・読み・意味・用法という4情報を併せ持つ表語文字であるために記憶の負担が大きいことを指摘し、日本語教育における非漢字圏の学習者の漢字学習上のポイントとして、「学習の短期目標をつくる、字形と意味との連想、構造・構成要素の利用、自分に合ったアプローチを考えさせる、訓読み語（和語）から音読み語（漢語）へ、意味概念ネットワークをつくる語彙学習」というポイントを挙げている。3節の授業概要で後述するように、非漢字圏の学生が多く受講した本コースにおいても、プロジェクトとして、加納の「学習の短期目標をつくる」「自分に合ったアプローチを考えさせる」「意味概念ネットワークをつくる語彙学習」に取り組むこととなると考えられ、漢字学習を効果的に進められることが期待できた。

2-2 海外の外国語環境（Japanese as a Foreign Language）下のオンライン漢字学習

本稿が対象とするコースは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンライン授業として実施した。オンラインにおける漢字学習は、受講場所を問わない学習方法として有効であると考えられるが、対面授業の代替方法として捉える場合、学習者側と教員側の両者の難しさがある。例えば、海外から受講する学習者にとっては、身の回りに十分な漢字使用環境がないことから、教材の文脈や漢字語彙の使用場面を理解することが難しいことが予想される。また、キャンパス内で使う日本語やテレビ・町の情報など、国内の対面授業で想定される授業外の日本語インプットが限られていることから、習った漢字や漢字語彙をどのような場面で使えば良いか、経験的に習得できる機会は少ないといえる。

一方、教員の立場においても、画面を介した漢字指導は、対面授業とは異なる様々な困難がある。例えば、オンラインの一斉授業では、対面授業のように学生の傍で一画一画を確認することはできず、個々の学生への直接的な指導に制限がある。また漢字語彙の持つ印象や語彙の使い分けなど、中級学習者が関心を持つ抽象的な知識についても、日常生活での経験に基づく実践的な例を提示することは、容易ではないと考えられる。

このような環境的、物理的な難しさがある一方で、オンラインの漢字学習ならではの利点も考えられる。竹山（2021）は、初級修了者を対象としたオンラインの漢字復習クラスで「日常生活の漢字」を調べる取り組みについて述べており、海外から履修している学生であっても、インターネットの画像検索を用いることで、アニメやドラマなどを含む広い範囲での漢字使用場面を収集したことを報告している。特にこのような視覚的な資料に関しては、オンライン学習のほうが、画面を通した情報提供や情報検索に取り組むやすいという利点が考えられる。

本稿で取り上げる学習者による漢字教材作成も、上記のような視覚的資料を活用して進めたものであり、同期型授業での活動と非同期型の作業時間を組み合わせたプロジェクトであった。また学習者自身が自らの興味関心をもとに教材のテーマを設定したことも、情報の限られた海外の外国語環境下から取り組むことができた一因であると考えられる。以上の背景をもとに、次節より、プロジェクト活動を実施した授業の詳細と、プロジェクト概要について述べる。

3. 対象とする授業とプロジェクト概要

3-1 授業概要

本稿が対象とする「中級日本語学習者のための語彙・漢字1」コースは「中級前半の語彙や漢字の読み書き、意味、用法について、講義を受けたり練習したりする。また、語彙や漢字に関する知識を深めたり習得を促進したりすることを目的に、調べ物学習や発表などの活動にも個人およびグループで取り組む。(シラバスより抜粋)」コースである。1週間に1コマ(70分)×11週間の授業で、同内容の2クラス(以降、セクションとする)が、4限、5限に連続して行われている。本コースは、JLPで開講している日本語の必修授業と並行して受講できる選択科目であり、JLPのJ4コースレベル以上の学生を対象に、漢字学習の方略的な学び(ストラテジー)に焦点を当てたコースとして開設された。

本稿が報告する2021年冬学期の履修者は、2セクションを合わせ全18名で、J4が10名、J5が4名、J6が1名、J7が2名、J7を終えた学生が1名と、日本語レベルはJ4からJLP修了レベルまでと幅広かった。授業開始時のアンケートによると、受講理由の上位は「漢字を更に学習したいから(9件)」「語彙を広げたいから(7件)」「漢字が苦手だから(4件)」(複数回答あり)であり、漢字や語彙を意欲的に学びたい学生と漢字が不得意な学生の両方が混在しているクラスであった。

本稿が対象とする2021年冬学期は、新型コロナウイルス感染拡大による社会的状況、またそれに伴う留学生の入学制限が実施されており、Zoomによるオンライン同期型授業として開講した。履修した学生の出身および受講場所は図1の通りであり、国内からの履修者9名、海外からの履修者9名であった。海外からの履修者は、各国の時差やインターネット環境の差があったが、日本時間での授業時間にそれぞれの国からZoomにアクセスし、カメラとマイクをオンにして授業に参加した。

国内からの受講者：9名 ベトナム、中国、アメリカ2名(うち1名*)、イギリス2名、マレーシア*、タイ*、ホンジュラス 海外からの受講者：9名 ドイツ、スウェーデン2名、アメリカ3名(うち2名*)、シンガポール、ルーマニア、中国
--

2セクション合計、「*」は継承語の背景を持つ学生を示す。

図1 履修学生の出身国(*の学生の場合は最も長く住んだ場所)と受講場所

コースのスケジュールは、以下の表1の通りである。本コースは、70分の前半に、漢字教材『(新版) BASIC KANJI BOOK—基本漢字 500—VOL.2』(加納ほか, 2015)⁽²⁾を用いて単漢字や漢字語の練習を行い、後半に前半に学んだ漢字を用いた「活動」と「プロジェクト」を交互に行った。「活動」の時間には、各回までに学んだ単漢字を用いて、『(新版) BASIC KANJI BOOK—基本漢字 500—VOL.2』の課ごとの導入ページで紹介されている内容や、熟語、反対語、同音異義語などの漢字を語彙レベルに広げて使用する活動を行った。また「プロジェクト」の時間は、学生自身が作成する漢字教材の完成に向けて、クラス外での個々の取り組みを共有する機会とした。この時間には、グループワーク(Zoomのブレイクアウトルームを使用)や教員との相談の時間を設け、プロジェクトの進捗状況を共有しながら、漢字教材作成作業を進めた。

表1 2021年冬学期の授業スケジュール

	授業前半	授業後半	
	漢字学習	活動	プロジェクト
第1週	オリエンテーション	—	スケジュール説明、テーマ相談
第2週	「趣味」映画写真音楽料組思色白黒赤	—	テーマと構成の発表 「語彙紹介ページ」の相談
第3週	「反対の動作」起寝遊立座使 始終貸借返送	1日の生活で使える熟語、 スケジュール帳の作成(タスク)	—
第4週	「日本の結婚式」結婚離席欠 予定洋式和活	—	「読み練習ページ」の相談
第5週	「日本の四季」春夏秋冬暑熱 寒冷暖温涼天	反対の言葉、連想する言葉、 手紙の書き方(タスク)	—
第6週	「仕事」仕事者運転選記議員 商業農	—	「書き練習ページ」の相談、 レファレンスの書き方
第7週	「テスト問題」良悪点正違同 適当難次形味	いろいろな職業、自分にとって 大切な言葉(タスク)	—
第8週	「大学の入学試験」試験面接 説果合格受落残念	同じ読み方の漢字	プロジェクトの発表の仕方
第9週	プロジェクト発表		
第10週	これまで学んだ漢字の復習	—	漢字教材への相互コメント、 ふりかえり
第11週	期末試験		

本コースの評価の内訳は、期末試験20%、平常点80%(プロジェクト20%、宿題20%、クイズ20%、クラス内タスク10%、出欠10%)であり、本稿が扱う漢字教材作成のプロジェクト活動は、評価全体の20%を占めた。オンライン授業を進めるにあたり、授業のLMS(学習管理システム: Learning Management System)は、Google classroomを使用した。

3-2 プロジェクト概要

次に、プロジェクトの概要を説明する。プロジェクトでは、自分の興味関心のあるテーマに関し、Google Slides を使い、絵や写真などの視覚的な情報を含むデジタル漢字教材を作成した⁽³⁾。プロジェクトで作成する教材は、「表紙」「語彙紹介」(2 ページ)、「読み練習」(2 ページ)、「書き練習」(2 ページ)、「レファレンス」(使用した写真の出典)の計 8 ページであり、教材内で使用する漢字語彙は、テーマに応じて、授業で習っていない語彙や難しい語彙を取り入れても良いこととした。教材作成後には、教材の目的や工夫した点などを発表し、どのような教材を作成したか、クラス内で共有した。また最後に、両セクションの学生に PDF 版の教材を公開し、互いのセクションの教材にコメントをするという相互コメント活動を行った。プロジェクトの流れは、以下の通りである(実施スケジュールは、表 1 のプロジェクト欄を参照)。

- ①テーマの設定
- ②教材の構成
- ③スライド作成—表紙、語彙紹介、読み練習、書き練習、レファレンス
- ④スライドの教員チェック
- ⑤教材発表
- ⑥コース内での教材公開 (PDF 形式)、相互コメント

①テーマの設定②教材の構成では、ワークシートをもとに各自の案をクラスで発表し、クラスメイトや教員からの助言を得た。また③スライド作成と④スライドの教員チェックは、「語彙紹介」「読み練習」「書き練習」の各内容に対し教員がコメントをし、期限までに修正して再提出するという作業を繰り返した。第 9 週に設けたプロジェクト発表では、「教材のテーマ」「教材の対象」「テーマ選択の理由」「教材としての工夫」「作成時に苦労したこと」「自分の意見や感想」の 6 点について、Zoom の画面共有機能で教材を見せながら発表し、質疑応答を行った。また、第 10 週の漢字教材への相互コメントは、PDF 版として公開した他セクションの学生の教材に対し、Google Sheets にコメント書き込む形で実施した。

4. プロジェクトの実践と考察

4-1 テーマ選定と語彙の選択

本学期の履修者 18 名が選択したテーマは、「日本のポップ音楽」、「天気」、「寮の物」、「水星」(歌詞)、「漢字の部首の物語」、「ボルダリング」、「料理」、「海洋学」、「宇宙」、「マイクラフト」、「求人応募」、「旅行」、「日本のお菓子」、「習い事」、「クラシック音楽」、「空港の旅行」、「建築語彙」、「日本の地理」であった。資料 1 (本稿末) に、各教材を作成した学生の背景(出身国、受講場所)と扱った漢字の一覧を示している。本プロジェクトが参考とした小川ほか(2018)の研究においては「天気・季節」「大学の生活」「病気・薬」「旅行」「恋愛・結婚」というテーマの教材が挙げられていたが、本授業のプロジェクトにおいては、学生の趣味や専門に関するテーマや実用的な日本語場面に関するテ

マなどがみられた。また本コースの履修者は国内から9名、海外から9名と同数いたが、漢字の使用場面が少ないと考えられる海外からの履修者にもテーマの目立った偏りはみられず、各自が多様なテーマをたて教材作成に取り組んだ。

図2は、漢字教材の表紙と語彙紹介ページの例である⁽⁴⁾。左例は、「旅行」をテーマにした教材の表紙（タイトルと単漢字一覧）であり、右例は、「ボルダリング」をテーマにした教材の語彙紹介ページである。

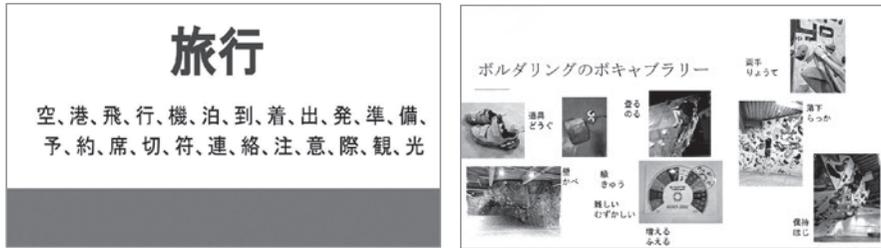


図2 表紙と語彙紹介ページ

図2の語彙紹介ページは、趣味であるスポーツをテーマとした漢字教材であり、自分で撮影した写真を使って、漢字語彙とその読み方を紹介している。例にみられる「両手」「壁」「保持」といった語彙は、教室での漢字学習では学ぶ機会が少なく、こうした実際の競技の場で同時に表出する漢字語彙である。このような特定の場面を通し、教材を作成しながら、学習者自身も漢字語彙の知識を広げていると考えられる。

また、教材の写真を自分で撮影・選択することや、テーマ（文脈）の中で扱う語彙を選定するという過程は、加納（2017）の述べた漢字学習上のポイントである「意味概念ネットワークをつくる語彙学習」にも相当する活動であると考えられる。自分で設定したテーマに主体的に取り組むことだけでなく、他の学生に教材を説明、共有する時間も設けたことにより、個人とクラス内の両方で、語彙や漢字知識が広がっていく様子がみられた。

4-2 漢字の使用場面と問題作成の形式

次に、漢字を読む練習である「読み練習」ページの教材作成について述べる。図3は、読み練習のページの例であり、左例は天気に関する教材、右例は旅行に関する教材の読み練習である。問題作成のレイアウトや形式は自由としたが、普段問題を解く立場である学生が視点を変えて問題を作成することは、教える者と学ぶ者という役割が反転することから非常に大きな挑戦となった。また作成の段階で、「どうしたら学びやすい教材になるのか」という漢字学習の戦略に直面し、自身のこれまでの漢字学習を振り返ったり、クラスメイトに相談したりする様子がみられた。

図3の左例は、「細雪」、「時雨」など天気に関する特別な読みを取り上げた、語彙と写真のマッチングを行う問題である。この問題は、例文自体が言葉の定義や説明になっ

ていることから、漢字学習であると同時に、天気の話に関する知識も学ぶことができる。またこの例は下線部の読みを問う問題だが、学習者によっては練習問題の指示文（「文を読みましょう」など）の日本語表現に慣れず、手元にある他の教材を見直して参考にする者もいた。

一方、右例は、旅行をテーマにした教材で、旅行の行程について、二人の人物がチャットをしている構成である。教材の中に、相手を想定したコミュニケーション要素を取り入れ、語彙の実際の使用場面を想定した教材である。この教材を作成した学生は、プロジェクトの振り返りにおいて、「この工夫をすると、チャットの話が覚えれば、話にある漢字や語彙が覚えられると思います。」と述べており、漢字の使用場面と知識を同時に学ぶというストラテジーを意識していることがわかる。以上より、これらの2例は、どちらも漢字の読み方を問う問題としてだけではなく、対象となる学習者の更なる学びを意識した、工夫のある教材であるといえる。



図3 読み練習ページ

4-3 学習者の背景からみる教材内容

次に、漢字を書く練習である「書き練習」ページについて述べる。図4は、書き練習のページの例であり、左例は大学寮をテーマにした教材、右例は空港や旅行についての教材である。左例を作成した学習者は、テーマ設定の理由として「はじめて海外から来る生徒が寮に何を持っていったらいいのかがわからない場合、この教材を見てわかるようになると思います。」と述べており、書き練習のタスクとして、寮に実際にある物についての語彙を書く練習を作成し、これから入寮する学生に必要な語彙を紹介している。

また右例は渡航の際の荷物のリストであり、リスト形式で日本語の語彙を書く練習である。この学生は海外からの履修者であり、日本の入国制限が緩和された際にはすぐに入国したいと希望している学生であった。教材のリスト下段には、自分で持ち物を加える箇所もあり、海外から履修する学生にとっては実践的な場面が想定された教材である。

両教材を比較すると、4-1で国内・海外履修者のテーマ選択に大きな違いがないと前述したが、問題の形式やストラテジーに見られる文脈においては、それぞれの学習者の背景が反映されていると考えられる。また同じ書き練習であっても、一字ずつ正しく書くという問題（左例）や、英語を直接翻訳する問題、自分に必要な語彙を加えることができる工夫（右例）が見られ、学習者によって様々なアプローチがとられていることがわかった。

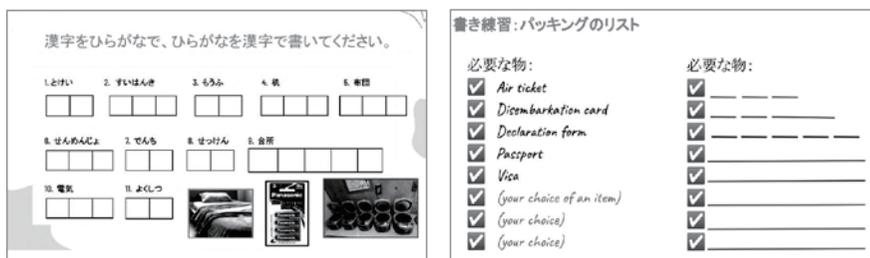


図4 書き練習ページ

4-4 漢字学習のコミュニケーション型な活動への転換

最後に、クラスでの教材発表後に行った、教材の相互コメント活動について述べる。一般に、漢字学習は、「読む」「書く」という文字の習得であることから、個人の取り組みとして考えられることが多い。小柴 (2019) は、これまでの漢字教育について、プレゼンテーションを取り入れた実践が少ないことを述べており、「読む」「書く」が中心とされていた漢字教育から「話す」「表現する」という手法が離れている点について指摘している。本コースでは、個々が教材作成を行った後、クラス内での質疑応答を含む発表、PDF 版の教材の公開、また公開された教材に対する相互コメントを行う活動を実施した。相互コメントにおいては、予め作成者が教材の模範解答を準備し、自分と異なるセクションの学生の問題を解くことで、クラスを越えてコメントを共有する活動を行った。

以下の表 2 は、相互コメントの一部である。下線 (1) は、教材に視覚資料 (写真) を加えたことの効果について触れ、下線 (2) は、教材の問題形式について改善点を提案している。どちらも作成者、学習者の両立場を意識した客観的なコメントである。また下線 (3) は、大学内の寮に関する教材 (図 4) に関するコメントであるが、まだ日本に入国できない海外履修の学生がコメントを行ったことで、漢字や語彙だけでなく、国を越えた情報共有の機会となった様子も見られた。また下線 (4) にもあるように、寮や旅行といった学生 (留学) 生活に必要な語彙が選定されることは、漢字学習のモチベーションや、実際の状況とともに学ぶストラテジーとして、良い効果が生まれると推測できる。最後に下線 (5) からは、作成した学習者の専門分野であった建築に関する語彙に関し、「難しい漢字だが、面白いから楽しくなった」という記述がみられ、漢字の難易度がテーマやデザインにより補われている様子が見られた。

以上より、相互コメントの活動においては、教材への印象のほかに、作成者としての工夫についても、多くのアドバイスが書かれていることがわかった。またコメントから、それぞれの学生が、教える立場 (作成者の立場) と学ぶ立場を行き来しながら、クラスメイトの教材を客観的に分析している様子が見られた。

表2 漢字教材に関する学生同士の相互コメントの一部(個人名は〇〇に変更、原文ママ)

教材のテーマ	良かったところ、もっと良い教材にするために直したほうがいいところ
「宇宙」	スライドの黒い背景は宇宙の感じがしています。文字もとてもきれいで、読みやすいです。(1) <u>各惑星と対応している写真も載せているので、とてもわかりやすく、勉強になります。</u>
「海洋学」	〇〇さんのテーマはわかりやすく面白いです。いろいろな海の動物の紹介に、絵を使ったのは便利だと思います。私は海洋学のことあまり知らないんですが、スライドを通して、少し分かるようになったと思う。(2) <u>教えた言葉と漢字を文や小説に書き練習があれば、もっといい教材になるかもしれません。</u>
「寮の物」	〇〇さん、便利なトピックですね！そして、スライドは全部きれいだし、わかりやすいです。スライドで使った色や、画像や、イラストなどはとてもきれいで、漢字紹介も、読みと書き練習もわかりやすいです。(3) <u>私はもうすぐ寮に住むことになりますから、〇〇さんの教材を使って勉強します。</u>
「旅行」	〇〇さんのスライドを見て、最初の気づいたことはスライドの明るくて元気な色でした。選んだ漢字と言葉はとても便利なので素敵だと思います。(4) <u>多くの留学生こういった言葉と漢字を使わなければならないと思います。読み練習のスライドはメッセージのような形があってとても面白くて楽しいと思います！</u>
「建築用語」	〇〇さん、スライドはすごい綺麗なデザインで作ってありがとうございます。雑誌のようみたいです。(5) <u>漢字の難しさのレベルはちょっと高いのに、面白いから、楽しくなりました！</u>

5. おわりに

本稿では、「中級日本語学習者のための語彙・漢字1」で扱ったプロジェクト活動の報告として、国内・海外の両学生による漢字教材作成活動について考察した。学習者が教材を作成するという本活動を通し、様々な場所で学ぶ学習者が、各自の学習背景や日本語使用場面を反映させ、語彙の広がりや漢字学習のストラテジーを考える機会を得たことがわかった。コース終了時のアンケートでは、プロジェクトの振り返りについて、「このプロジェクトは、人を教える立場になったことがなかったため、初めは大きな挑戦が必要でした。(中略)しかし、私なりに工夫した方法を考えることができとても参考になっただけでなく、自分のテーマから今後役に立つ言葉をたくさん学ぶことができました。(筆者訳)」というコメントも見られ、本活動が、漢字学習の視点を変え、覚え方の工夫や語彙の広がりなど、漢字の学び方を再考する機会となったことが推察される。

大学における日本語学習者は、今後もアカデミックやビジネスレベルでの漢字使用など様々な場面で、漢字やそれに伴う漢字語彙に対し自律的な学習者として学び続けていくことが期待される。本コースは、週に1コマという短い授業時間、またZoomによるオンライン形式の授業であったが、各学生にとって、自律的で広がりのある漢字学習へのきっかけとなってくれたことを願う。今後も、こうした学習者の視点に立った漢字学習について、学習者が作成した教材の詳細な分析や、テーマを設けた漢字語彙習得の効

果など、更に考察を進めていきたい。

注

- (1) JLPにおけるJ4コースから演習コースまでのレベルは、以下の通りである。J4コースは「社会や文化に関する身近なトピックを通して日本語の書きことば、話しことばを学ぶCEFR B1レベルのコースである。」、J5コースは「社会や文化に関するやや専門的なトピックを通して、アカデミックな日本語の書きことば、話しことばを学ぶCEFR B1レベルのコースである。」、J6コースは「一般的な社会問題や、やや専門的な話題を通して、日本語の書きことば、話しことばを学ぶCEFR B1/B2レベルのコースである。」、J7コースは「日本語で行われる大学の授業に参加できるように準備する日本語上級初めのコースである。幅広い表現力など日本語の運用力を身につける。」、日本語演習コースは「日本語母語話者に準ずる日本語力を身につけることを目指す。上級のレベルに達している学習者が、日本語を用いて適切・的確にコミュニケーションが図れるようになることを目的とする。さらに、議論、プレゼンテーションを通して日本語母語話者に準ずるアカデミックスキルを身につけることを目指す。」である（2022年11月現在、シラバスより抜粋）。
- (2) JLPのJ1からJ3コースでは、本稿の授業で扱うテキストの前巻である『(新版) BASIC KANJI BOOK—基本漢字500—VOL.1』を使用している。
- (3) Google Slidesによる教材作成では、コースのLMSであるGoogle classroomから提出状況を確認したり、学習者の作業中のスライドを教師が同時に確認することができた。
- (4) 本稿にある教材例やコメントについては、学生本人より、個人情報に配慮した上で掲載することの承諾を得ている。

参考文献

- 小川早百合・関かおる・栗原由加・尾崎（渡辺）久美子・本田弘之・武井直紀（2018）「グローバル人材のための文字教育の開発—漢字を『むずかしい』から『楽しい』へ」平成27年度～29年度科学研究費補助金挑戦的萌芽研究研究成果報告書
- 尾崎（渡辺）久美子（2018）「グローバル人材のための文字教育の開発—漢字を『むずかしい』から『楽しい』へ—」2018年度国際基督教大学グローバル言語教育研究センター第2回研究例会資料
- 加納千恵子・清水百合・谷部弘子・石井恵理子（2015）『(新版) BASIC KANJI BOOK—基本漢字500—VOL.2』凡人社
- 加納千恵子（2017）「漢字圏学習者と非漢字圏学習者のための漢字学習と評価の方法—音声と表記を結びつける活動の試み—」『JSL 漢字学習研究会誌』9, 1-10.
- 栗原由加・関かおる（2018）「漢字学習の意欲に影響する要因—ラオス国立大学及びヤンゴン外国語大学の調査結果の比較検討を通じて—」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』3, 17-32.
- 小柴裕子（2019）「漢字教育におけるアクティブラーニングの一考察：「書く」「話す」

アウトプットの実践から』『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』17, 49-56.

竹山直子 (2021) 『日常生活の漢字』を学ぶ：初級修了者を対象としたオンラインの漢字復習クラスから』『多文化社会と言語教育』1, 59-62.

参考資料

資料1 学習者の履修場所とプロジェクト内容

国内の履修者の教材			海外履修者の教材		
テーマ	主に扱う漢字	出身国	テーマ	主に扱う漢字	出身国
「日本のポップ音楽」	命、達、訳、愛、春、自、 咲、秋、葉、散、幸、誰、 悲、喜、実、傷、救、護、 闇、染、朝、光、照、満	ベトナム	「漢字の部首の物語」	翻、訳、省、庁、癒、価、 値、観、勸、善、懲、 饒、虜、容、姿、誇、 糊、範	ドイツ
「天気」	気、象、時、雨、風、寒、 細、雪、露、月、梅、候、 明、流、星、白、日、食、 極、斗	中国	「料理」	食、品、料、理、材、料、 乳、卵、米、油、脂、野、 菜、箸、井、皿、塩、豆、 腐、焼、沸、鍋	スウェーデン
「寮の物」	炊、飯、器、団、気、時、 計、浴、室、電、池、毛、 布、石、鹸、洗、面、所、 机、台	アメリカ*	「海洋学」	白、海、豚、象、亀、 深、底、砂、蟹、蛸、 蠣、鳥、賊、蟹、月	スウェーデン
「水星」 (歌の歌詞)	水、星、太、陽、照、圈、 外、縁、無、無、狭、恋、愛、 観、目、眩、煌、浮、遊、 香、惑、星、輝、彈、稲、 艶、日、差	イギリス	「マイクラフト」	水、木、箱、火、炉、作、 業、台、牛、豚、鉄、 物、丸、石、炭、鉦、 棒、森、洞、穴、爆、 発	アメリカ
「ボルダリング」	筋、肉、広、背、腕、頭、 前、腹、脹、脛、登、増、 道、具、級、両、保、落、 壁、難	イギリス*	「旅行」	空、港、飛、行、機、泊、 到、着、出、発、準、備、 予、約、席、切、符、連、 絡、注、意、際、際、光	シンガポール
「宇宙」	星、太、陽、宇、宙、地、 球、銀、河、惑、惑、冥、王、 天、衛、飛	マレーシア*	「日本のお菓子」	砂、糖、麦、粉、酏、醬、 卵、片、栗、箔、蜂、蜜、 混、加、練、茹、泡、材	アメリカ*
「求人応募」	求、応、募、履、歴書、 適、分、野、連、絡、可、 能、部、門、勤、務、数、 貢、献、弱	タイ*	「習い事」	水、泳、音、楽、体、操、 芸、術、絵、歌、習、字、 月、謝、入、会、金、費、 用、演、劇、踊、彈、描、 運、動	ルーマニア
「クラシック音楽」	歌、曲、音、楽、声、作、 演、奏、吹、太、鼓、器、 弾、手、会、舞、台、鈴、 爆、詞	ホンジュラス	「空港の旅行」	旅、行、飛、空、港、入、 出、国、留、学、審、査、 観、光、目、的、張、名、 券、番、号	アメリカ*
「建築語彙」	断、面、屋、根、平、敷、 梁、基、垂、柱、礎、構、 階、段、造、差、地、図、 勾、配	アメリカ*	「日本の地理」	東、西、南、北、京、都、 奈、良、広、島、大、阪、 海、道、本、州、四、国、 九、州、都、道、府、県	中国

2 セクション合計、「*」は継承語の背景を持つ学生を示す。

謝辞

本コースの運営、また本稿の執筆にあたり、温かいご指導ご助言を賜りました。漢字教材についてご指導くださった尾崎（渡辺）久美子先生、新設コースのカリキュラム作成にご助言くださった小澤伊久美先生、桑野幸子先生、「中級日本語学習者のための語彙・漢字2」コースを担当された相場いぶき先生に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

（吉田 睦一国際基督教大学）